

序

創立 140 年を迎えた神戸女学院の図書館に新しいコレクションが加わった。「由起しげ子文庫」総数 666 点、その内容は手稿、印刷物から、切抜、日記、写真、手帳等に及ぶ。由起しげ子（以下、敬称略・旧姓名 新飼志げ）という本学に縁ある一女性の人生の歩みを如実に物語る資料群である。

この度、ようやくそれらの整理が完了し、目録刊行の時を迎えた。

1900（明治 33）年生まれの由起しげ子は、1949（昭和 24）年、第 21 回（戦後再開第 1 回）の芥川賞を受賞した。その時、既に 48 歳。若き日は文壇とは無縁で過ごした遅咲きの作家の文筆活動は、以後、急速に本格化していく。由起しげ子は、大阪府立堺高等女学校、プール女学校別科（英語）を経て 1918（大正 7）年に本学音楽部（当時）に入学、山田耕筰に師事する女性であった。1921（大正 10）年 1 月に本学を中退して上京するも病のため大阪に戻り、1925（大正 14）年に画家伊原宇三郎と結婚。翌年より 1929（昭和 4）年まで夫とともにパリで生活、三男一女をもうけたが、1945（昭和 20）年より夫とは別居、45 歳から生活のために児童文学作品の翻訳と執筆を始めた。三男、長女を抱え、また病気の姉の世話をしながらの生活を維持するための執筆活動であったが、間もなくその文才は、「本の話」による芥川賞受賞という形で世に認められ、以後、1969（昭和 44）年 12 月 30 日に亡くなるまで、数多くの作品、文章を著した。〔参考：吉村 稔「由起しげ子論—神戸女学院と芥川賞作家の世界—」（神戸女学院百年史編集委員会編『神戸女学院百年史 各論』1981 年）〕

短文、随筆等、書き遺したその全てを拾い上げることは今となっては困難なことではあるが、発表された執筆物をでき得る限り収集し、年次別にまとめたものが、本冊子の後半「由起しげ子著作等一覧〔第一稿〕」である。一瞥してご了解いただける通り、由起しげ子の作風は芥川賞受賞当初のものから次第に中間小説と呼ばれるものに変容し、作品掲載誌も文芸雑誌から女性誌、週刊誌に遷る。女性の生き方への関心や社会風俗へのまなざしを示す文章に加え、若いころ受けた音楽教育や、海外生活（旅行を含む）の影響が窺える文章も多い。また、従来の研究ではさほど重要視されてこなかったが、昭和 30 年代を中心に、由起しげ子の作品を原作としたラジオドラマ、映像作品が多数確認できることは特筆すべき点であろう。例えば 1954（昭和 29）年発表の「女中っ子」は翌年に映画化され、以後、複数回テレビドラマ化されている。この他、東芝日曜劇場、ナショナルゴールデン劇場等、お茶の間向けに、或いはまた女性向けに放映されたテレビドラマの原作者であるという由起しげ子の一面は、その描くところが当時の市井の人々、特に女性に、共感をもって受け入れられたものであったことを物語る。

「由起しげ子文庫」は、日記や手帳等、作家研究にとって重要な資料を含む。由起しげ子没後、時を経過する中で巷間に流れたものも幾許かあるように仄聞するが、ご遺族が多年にわたり大切に守ってこられた、由起しげ子個人の交友関係を示す記録や作家としての学びの痕跡であるノート、メモ類、日常的な姿を髣髴とさせる日記類までもを一括して当図書館のコレクションとして収蔵することとなった。まとまった形であることにより、構想段階のメモを基に手稿が書かれ完成稿に至るといふ、作家が作品を紡ぎ出す過程を窺うことが可能となり、また場合によってはそ

の作品が脚本化されるという段階までを跡付けることができる。近時、近代文学研究においては創作段階の手稿類の重要性が再認識されているが、「由起しげ子文庫」はそのような学界の潮流にも応えうる内容を備えている。

資料の総体的な分析には今後それなりの時間が必要であるが、作家由起しげ子の実像を解明すべく、まず本学内に研究の場をたちあげる準備を進めている。その成果公表とも相まって、当館の「由起しげ子文庫」は、文学や作家を対象とする研究において用いられる資料という限定的な枠組みに閉じられることなく、昭和のメディア研究や女性の視点からの戦後史研究等を進める原動力となり、第二次世界大戦後の日本を語る資料群として複数領域の研究者らによって横断的に活用されるものとなろう。そして、本冊子が、そのような研究活動の際にまず紐解く手引きとして有用な役割を果たすものとなることを強く願う。

最後に、「由起しげ子文庫」の受け入れ前後から本『「由起しげ子文庫」目録』作成までの経緯を略述しておく。

由起しげ子ご長男伊原通夫氏（在ボストン）より当館に対し資料寄贈のお申し出をいただいたのは2011年11月下旬のことであった。その後、ご次男乙彰氏（在東京）との直接のやりとりを経て、翌2012年9月に受け入れの具体的な準備が学内で始まった。同年10月に臨時史料室委員会にて受け入れを承認し、伊原通夫氏、伊原乙彰氏に対し10月18日付でその旨をご連絡した。これを承けて、12月には当該資料が伊原通夫氏より当館に一括送付された。第一次整理作業は翌2013年2月下旬より当館にて開始、3月13日に終了した。溝口良子当館課長（当時）をはじめとする当館職員の主導で実施されたこの作業には、飯田祐子教授（当時）ゼミ生を主体に、蔵中ゼミ生を加えた10名余りが従事した。約10日間、学生達は一点ごとに内容や状態をカードに記入するという基礎的な分類作業をおこなったが、その作業内容は予想を遥かに上回る精密なものであった。その後、2015年5月、小松秀雄前館長より諸事の引き継ぎを受け、懸案であった本目録の刊行に向けた作業を始動した。全資料について精査し、第一次整理作業の補訂を重ねた上で、目録化を進めるとともに、寄贈者伊原通夫氏、伊原乙彰氏には、寄贈資料一式の公開及び本『「由起しげ子文庫」目録』の刊行について、改めて書面にてご同意をたまわった。

貴重な資料を当館にご寄贈くださった伊原通夫氏、伊原乙彰氏に、衷心より深謝申し上げる。

尚、本目録は、前半の「「由起しげ子文庫」目録」を石村真紀（当館課長）、西村絵里（当館職員）、碓井美沙季（同）、後半の「由起しげ子著作等目録〔第一稿〕」を蔵中さやか（本学教授、日本文学担当）が主担し作成した。ヴォーリス建築である当館本館（重要文化財）の天井のアラベスク文様を意匠化し本学スクールカラーを配した装幀は植杉苑（当館職員）、また口絵写真の撮影は戸田英里（同）による。

2016年3月31日

神戸女学院大学図書館長（史料室長）

蔵中 さやか